

第2章 協働による景観づくり

第1部 市民がとらえる中津の景観

1. 中津市景観研究会

中津市では、地域の自然、歴史、文化などの人々の生活を再認識し、後世に残すための取組みを進めています。その一環として、平成19年7月、景観に関する調査を目的に「中津市景観研究会」を発会しました。

公募の市民とまちづくり推進室で構成し、5つの部会（河川・河岸線部会、旧城下町部会、旧城下外部会、国定公園部会、農山漁村部会）で日ごろ見慣れたところだけでなく、それ以外の景観などについてもテーマ別に調査を行ってきました。月例会での報告を重ね、その成果を報告書として取りまとめています。各部会から提案された概要の一部を以下に紹介します。



景観研究会の様子

●河川・河岸線部会

誇れる景観

・中津川河口の砂紋さもん

耶馬の森から山国川を通り、豊前海に流れ込む水や砂は豊かな恵みを育みます。



・舞手川河口

背後地を高波から守ると同時に、干潟域に生息する希少生物や、アシ原の湿地帯を保護するために堤防を内陸部に下げた“セットバック護岸”の場所です。市民と研究者と行政が協働して協議会を開き（2002年～2005年）徹底した話し合いをもとに実現した例で、全国的に注目されています。



・大新田海岸

昭和40年頃までは、中津市の大新田や三百間浜には、広い砂浜と青々と茂る松林が続いていました。最近、干潟の持つ能力や素晴らしさが見直され、人々の姿がもどっています。



• 中津干潟

瀬戸内海最大規模の広さと環境を誇る、国内屈指の干潟です。希少生物の生息地であるだけでなく、子どもたちの環境学習の場としても注目されています。



• 蛸瀬川河口の葦原と塩性湿地

アシ原は景観の形成だけでなく、河川の水質浄化や海に流入する有機物や廃棄物を阻止するという意味でも重要な役割を持っています。



• 中津川河口の葦原

「豊前國中津城之図」(貞亨2年・1685年)によると、中津城のまわりはどこもかしこもアシ原だったという意味の注記がなされています。そのたたずまいを残すのが中津川河口一帯です。



• 荒瀬井路^{かわべらまぶ}の川平間歩とその一帯

300年あまり前、時の中津藩主小笠原長胤の命により、山国川の水を下毛原台地へと引くために建設された荒瀬井路。山国川の水物語をたずねるには最適のエリアです。



• 山国川のほとりの集落(本耶馬溪町上曾木集落)

何気ない景色ですが、川を生活の中に上手く取り入れて暮らしてきた昔の生活の名残りを残す集落であり、山国川流域でもこのような風景は他では見られません。



• 犬丸川(金色川上流)

犬丸川の上流(金色川)を遡ると、そこには川沿いに咲く彼岸花の景色、秘境の滝などの四季折々の自然景観があります。



支障をきたす景観

- ・護岸・防波堤・離岸堤（海岸施設）など
- ・大新田松林の防護柵
- ・河川改修などによるアシ原の撤去や砂州の撤去
- ・衰退する松
- ・台風や集中豪雨時の漂着ごみの堆積
- ・河川敷に繁茂する竹など
- ・散乱ゴミ
- ・壊れた解説看板 など

形成したい景観

- ・柵のない伸びやかな林
- ・白砂青松のかつての大新田海岸
- ・植生にあわせた松の植林と市民と行政による長期的な維持管理計画
- ・護岸の内陸部へのセットバック化による砂浜の再生
- ・防災・防護と景観保全の双方が折り合いのつく海岸事業
- ・葦の茂る河口とその先に広がる海、そして神社のたたずまい
- ・川平間歩、川平隧道(土木遺産)、サイクリングロードを一体化した観光ルート
- ・採光を良くし対岸からの景観も確保した河川敷
- ・河川のそばの花畑 など

●旧城下町内外部会

※旧城下町内外部会は、発会当初「旧城下町部会」「旧城下外部会」の別部会で調査を実施していましたが、報告に当たっては合同のまとめをしています。

誇れる景観

くらなしはま
・閻無浜神社

古くから境内の下まで瀬戸内海の白波が洗う景勝の地に鎮座し「龍王のお宮」とも言われ、遠くまで続く白砂青松の景観は多くの人々を境内に誘いました。



・貴船神社（中殿町）「かまぎ(加万伎)餅祭」

中殿町貴船神社では景行天皇の時代から水の神を守り司って一千余年、洪水を治め旱魃を潤す神威により、地区民の危難を救ってきました。



こうがんじ
・合元寺（赤壁寺）

黒田如水築城の頃、築上郡木江の城主宇都宮民部少輔鎮房が城中で暗殺され、従臣の多くも討たれました。逃れた者も当寺の門前にて奮戦し、最後をとげました。以来門前の白壁は幾度塗り替えてもその壁から血の痕がたえないので遂には赤色に塗られ、現在赤壁の合元寺とされています。



• 本伝寺

創建は、康永2年（1343年）で、当初は天台宗でしたが慶長10年（1605年）3月に法華宗へと改めました。山門へと続く白壁に松の緑が美しく映えます。



• 宝蓮坊

細川忠興に従い、中津へ来た仲津郡今井の地頭浄善寺三世村上良慶により慶長12年（1607年）に創建されました。

寺町の通りの南端に位置し、特徴的な山門と本堂は、遠くからでもよく見通せます。



• 中津カトリック教会

1937年に聖堂が建設され、中津の真珠と称えられました。イタリアー技師の手によるステンドグラスは、見事な造作で中津の観光コースにも、是非推薦したい場所です。



• 留守居町界隈

この地域は、藩政時代の町割をほぼそのまま残しているのではないかと推定されます。道幅は狭く、戦前の建物が随所にみられ、ほとんどが住宅で、住宅の規模はさまざまながら屋敷町の風情が強く感じられるところではあります。



留守居町界隈

• 旧道のまちなみ（本耶馬溪町樋田地区）

この町筋は、かつては国道で耶馬溪街道であり、元大分交通耶馬溪線の洞門駅を擁し賑いをみせたところです。この通りには酒造業を営んでいた樋田家（大正5年築）をはじめ、明治以前の建物もあり、医院等戦前の建物や割合い大型の現代和風の住宅が連なっています。



本耶馬溪の旧道界隈

● 国定公園部会

誇れる景観

・ 山国町大石峠

日田市より大石峠を抜けてから見える山系・岩峰の景観は、中津市の西の玄関口にして、すでに名勝耶馬溪の素晴らしさを訪れる人々に暗示させてくれるかのようです。新しい名勝として推薦できる程、優れた眺望景観の一つと言えます。



・ タカの渡り

毎年春になると様々な渡り鳥たちの渡り（移動）が開始されますが、なかでも八面山沿いに渡って行く猛禽類（ワシ、タカの仲間）の渡りは圧巻です。



・ クマタカの生息

耶馬日田英彦山国定公園域内ではほぼ全域にわたり、絶滅危惧種・種の保存法保護種のクマタカの生息が確認されています。クマタカの存在は郷土に誇るべき大変貴重な景観資源と言えます。



・ 下屋形地区

新しい名勝耶馬溪に推薦できる程に優れた眺望景観は、日ごろ見慣れた北斜面の八面山ではなく、南面の八面山への眺望景観かと思われます。



・ 猿飛さるとび甌おう穴けつぐん群

川筋一帯に延びる変へん朽きゅう安山岩あんざんがんに永い歳月をかけてできた大小無数の甌穴が広がっています。ここ猿飛は、四季折々の移ろいが見事な大自然の造形を成し、紅葉シーズンには、県内外から多くの観光客を迎えます。



まばやしきょう
・魔林 峡

さるとびおろけつぐん
 猿飛颯穴群の下流 1.5 kmに延びる峡谷です。いにしえ
 古の神秘と
 静寂とが漂うこの魔林峡は、「山国の高千穂峡」とも呼ばれて
 います。



・京岩・鷲岩の景

山腹にそそり立つ雄大な岸峰は、上方が「京岩」、下方が「鷲
 岩」と呼ばれています。麓から見ると2本の岩柱がくっきりと
 空に浮かび、まるで絵のようです。かつては鷲の生息も見られ
 ました。



こせと
・小瀬戸の景

へんきゅうあんざんがん
 変朽安山岩特有の緑色をした川床を流れる清流とせり立っ
 た山々の四季折々の営みが調和し、山里ならではの見事な溪谷
 美をとどめています。



・天の岩戸の景

谷沿いを上ると奇怪な岩の造形が多く見られます。上空を望
 めば、高さ数 10mの大岩壁が巨大な竜のような形をして天空
 に架かっています。この橋は、地元の人から「西京橋」またの
 名を「仙人梁」と呼ばれています。下方にある洞窟は「天の岩
 戸」と呼ばれています。



・深耶馬溪の紅葉並木

深耶馬溪にある 200mに渡り続く紅葉並木です。バスガイ
 ドさんから「ひさし紅葉」と呼ばれ、春の若葉もみじ、秋の錦
 もみじの時期には多くの人が立ち止まり、写真撮影を楽しんで
 います。



・タコノハタの景

「タコノハタの景」と呼ばれ、一目八景より玖珠方面へ約
 1.5 kmの地点を玖珠方面より見上げた景観です。深耶馬～玖珠
 間には多くの奇岩が見られますが、そのひとつです。



・一目八景

深耶馬の展望台は深耶馬の景の中心にあり、360度で8つの景色を見渡せることから一目八景の名がついています。

展望台から望める景観のひとつに、二つの岩が仲良く寄り添い立つ夫婦岩、岩の両側の山を翼に見立て更にその下が巣に見える、鳶巣山などがあります。



・大谷溪谷の景

約8kmにわたり河床を深さ数cmの清流が流れる大谷溪谷です。春～秋にはリバーウォークが楽しめます。



・ゴジラ岩（山移川筋の景）

山移川筋の景にあるとび岩は、映画『ゴジラ』の大ヒットした頃、その形がそっくりなことから、「ゴジラ岩」とも呼ばれるようになりました。



・耶馬溪ダム湖

その景観もさることながら、国内屈指のグレンデを持つ湖として全国から多くの水上スキー、ウェイクボードのプレイヤーが集まります。



支障をきたす景観

- ・国指定名勝等の雑木・倒木
- ・碎石跡地
- ・産業、生活廃棄物の集積
- ・名勝耶馬溪付近の電柱電線ガードレール、自動販売機等の色
- など

形成したい景観

- ・本耶馬溪町東谷・岩下、岩屋地区の景観
- ・耶馬溪町津民、奥畑地区の景観
- ・本耶馬溪町曾木地区の景観
- ・耶馬溪町家籠地区の景観
- ・ダム湖の植樹
- など

●農山漁村部会

誇れる景観

・山国川のほとりに残るお船寄

藩政時代の城主奥平昌高公の頃に整備され、藩主参勤の御座船や随行船の係留港として使用されていました。山国川沿いに往時をしのばせる石積み護岸が残っています。



・沖から見る八面山

現在のように船に様々な機器が備わっていなかった時代の漁師たちは、八面山の形やその見え具合などから、漁場を判断して操業したといえます。沖合から見ると、干潟と松林の向こうにそびえる八面山の姿は、とても美しいものです。



・海苔ヒビの建つ冬の干潟

中津の沿岸では、冬季、海苔養殖が行われています。今は海苔漁をする漁業者も減りましたが、潮が引くと大新田や三百間の海岸の遙か沖に、海苔ヒビの風景を見ることができます。



・棚田（本耶馬溪町）

比較的小規模ながら、景観を阻害する障害物が見られない棚田です。小さな谷を埋めるように作られたためか、ひとつひとつの棚田の曲線が大変美しく、背景の森林風景とも良く解け合っている景観です。



はだかたなだ
・羽高棚田

中津市で最大規模といわれている棚田で、日本の棚田百選にも挙げられています。戦国時代から江戸時代にかけて開墾された当時の石積みが残っており、自然傾斜を利用して階段状に水田が造られています。



• 冬の風物詩・アオノリ採り

冬の一番寒い時期、山国川(中津川)河口域の石についてスジアオノリがのび始めます。昔、アオノリ採りは漁村の女性の仕事でした。作業は、それはつらいもので、これを紛らわせるために「アオノリ採り唄」が生まれました。今も小祝地区の女性たちにより唄い継がれています。



• 田尻地区

大分県内でも最も遅くまで製塩業が残り生産高も高かったそうです。環境の変化が少ない地区なので路地に入るとタイムスリップしたような感覚にとらわれます。



• 大塚の新開地区

その広々とした新開エリアの空間は干拓の歴史を残しています。半農半漁の集落の面影です。



• 漁村独特の曲がりくねった細い路地

かつての小祝の路地は、消防車が入ってくる事が出来ず消火も困難を極めたそうです。この地区の独特なまちなみを作った生活の歴史も、漁業の衰退と共に消えようとしています。



• 加茂神社の鳥居と舞手川

加茂神社は田尻地区が奉っていますが、神社が位置するのは、大新田地区です。加茂神社の鳥居と田尻地区入り口の鳥居が舞手川をはさんで向かい合っているのには何か理由があるのでしょうか。



支障をきたす障害物

- ・大規模圃場整備・離農
- ・田園の建造物、構造物(電柱や高圧線)とその色彩
- ・水質悪化によるスジアオノリの減少
- ・松林の衰退、護岸(堤防)の建設 など

形成したい景観

- ・各地域のシンボリック山容
- ・八面山の山容がどこからでも見える風景
- ・素朴な農山村の景観
- ・耶馬溪町樋山路中坪・紅葉の景観
- ・炭焼き窯のある生活風景
- ・こずみ(稲わら積み)の景観
- ・棚田の石積みを残した景観(山国町槻木・桑原地区)
- ・景観と調和した構造物(ガードレールや電柱など)のある風景 など

誇れる樹木

山林原野や寺社の樹木から個人住宅、公共施設の樹木まで、総数26箇所の樹木を丹念に調査しました。景観樹木に推薦したいという誇れる樹木について、調査した樹木の一部を以下に紹介します。



ゲンボナシ



シャクナゲ



イチヨウ



イチイノキ



スギ



クロガネモチ



クスノキ



ナギ(雄)



ナギ(雌)



カエデ

2. NPO法人中津まちなみ会

特定非営利活動法人中津まちなみ会は、「中津市が推進する市街地、農山漁村における良好な景観及び住環境整備に協力し、住民が誇りをもてる魅力ある街づくりに寄与すること」を目的に、建築士会中津支部の会員が中心となり平成16年7月16日に設立しました。

平成18年7月21日、中津市が景観行政団体となったことをきっかけに「城下町・中津のまちづくりを市民みんなで考えよう」と、旧城下町の民家や建物の建築様式、時代などを2年かけて1軒ずつ調べて回り、歴史・文化的価値のある重要な建物、戦前の建物、和風の建物、洋風の建物、ビルなどに分けて「中津城周辺建物分布図」を作成しました。

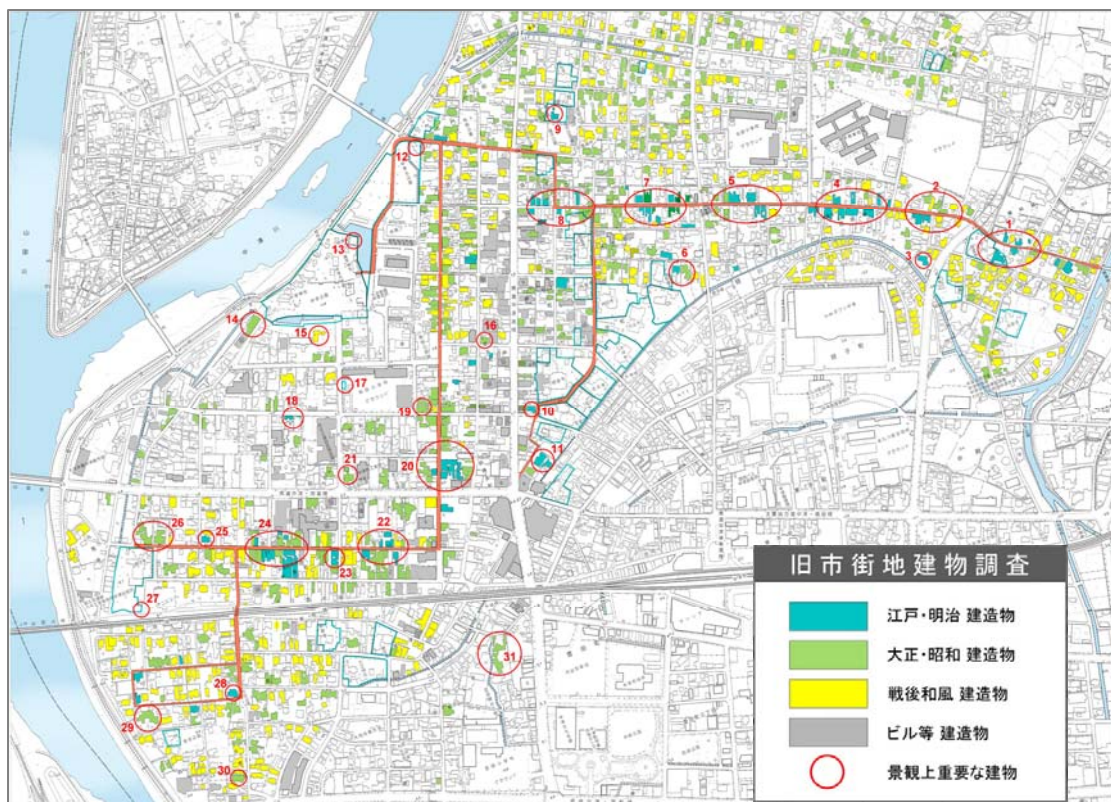
この基礎調査を基に中津まちなみ会では、城下町の良好な景観形成のための「伝統的景観保全区域」、「市街地風景区域」、「街なみ風景区域」のゾーニングを行い、それぞれの地域の特徴を活かした景観形成に向けての提案を行いました。

本市の景観計画では、この提案を基に「景観形成誘導地区」「景観形成重点地区」などの検討を行います。



まちなみ会によるワークショップの様子

【中津城周辺建物分布図】



『金谷地区の土塀復元』

土塀は『城下町の風情をもったまちづくり』を進めるうえで、重要なアイテムのひとつです。中津市では、平成17年6月から11月にかけてNPO法人中津まちなみ会の協力を得て、土塀の復元調査を行いました。復元調査を行った場所は、金谷上ノ丁文化交流広場として地域の皆さんに活用されています。



解体前の土塀の調査



既存土塀の解体



土ブロックの積上げ作業



土塀本体の形成完了



土塀の壁面塗装作業



土塀の復元(金谷上ノ丁文化交流広場)

『まちなみ会からの提案』

中津まちなみ会の提案は、本市が進める「城下町の風情をもったまちづくり」において、大変貴重なものです。ここでは、そのいくつかを紹介します。

- ◆中津駅北口の土地区画整理事業に伴う島田本町、蛭子町の和風建築による景観形成
- ◆金谷地区の土塀の修復等による武家屋敷の面影と町割の保存
- ◆諸町や豊後街道の町家などの修復等によるまちなみ保存
- ◆南部小学校、歴史民俗資料館などの公共施設の城下町の風情にあった景観形成

こうした提案の中から島田本町、蛭子町の景観形成はすでに実施中であり、その他のものについても実現可能なものについては事業実施に向けて検討します。

<景観形成イメージ図>



3. 「美しいまちづくりに関する市民アンケート」調査結果（抜粋）

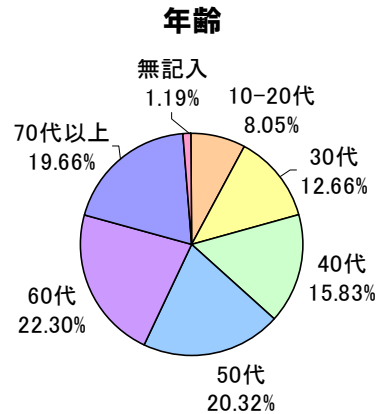
（1）アンケート調査の概要

中津市では、本計画の策定にあたって、市民意向を把握するために、市民向けのアンケート調査（全17問）を実施しました。

日ごろ皆さんが抱えている、中津市のまちなみや景観について、今後のまちのあり方や具体的なルールづくりなどについて尋ね、意見を取りまとめました。

調査内容

名称：「美しいまちづくりに関する市民アンケート」
 期間：平成20年5月7日～25日
 対象：市内在住の18歳～80歳
 配布数：3000枚
 回収数：758枚（回収率25.3%）



（2）アンケート結果の概要

■現状の景観について

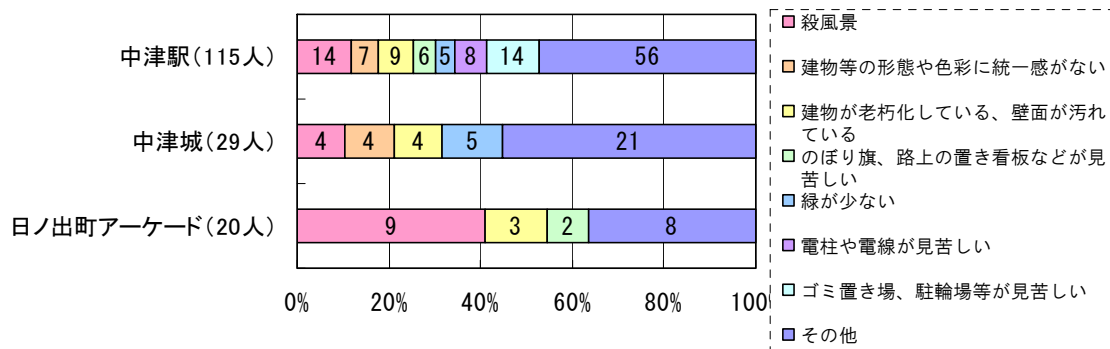
以前と比べたまちなみや自然風景について、「何らかの形で良くなった」と感じている方が、過半数を超えています。しかし一方で、「問題がある」や「改善が必要」という意見も挙げられています。特に、交流人口の多い中心市街地・中津駅周辺の場合が目立っています。（1位：中津駅(15.17% [115人])、2位：中津城(3.83% [29人])、3位：日ノ出町(2.64% [20人])）具体的にその主な理由を尋ねたのが、設問4の「主な理由」（上位3ヶ所のみ掲載）です。その他にも少数意見として、「名勝耶馬溪の景観が手付かずで荒廃しており残念」といった意見など挙げられ、全市的に景観の現状に心を痛めているようです。

* 割合：回答数／返信者数

設問4：中津市の美しいまちづくりにとって問題があると思われる場所、改善が必要と思われる場所があれば、最大3つご記入ください。また、その理由を選んでお答えください。

*理由は、下記グラフ凡例を参照ください。

主な理由（票数の多い3箇所を掲載）

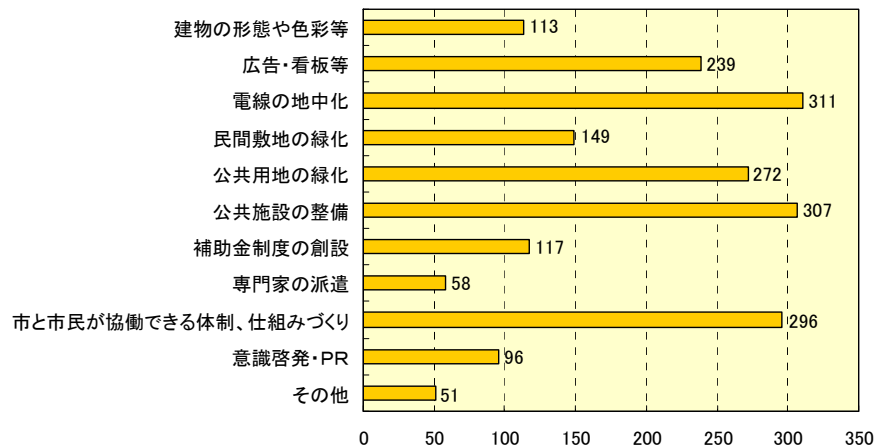


■景観形成のルールについて

景観の一つの阻害要因となる広告・看板等について「何らかの規制をかけた方がよい」と考えている方が全体の7割以上を占めていることがわかりました。その他、よりよい景観づくりに向けて何が必要か尋ねたところ、電線地中化（41.03% [311人]）、公共施設の整備（40.50% [307人]）、市と市民が協働できる体制、仕組みづくり（39.05% [296人]）の順になっています。道路や建物の整備に関する意見が多い中、市民の皆さんの市との協働体制に対する意識が高いことが注目されます。

* 割合:回答数/返信者数

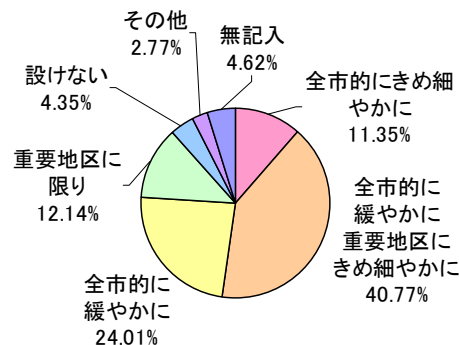
設問8：より美しいまちをつかっていくためには、今後どのようなことが必要だと思いますか？



■市民みんなで進める景観づくりについて

今後のまちづくりの有効な進め方の一つとして、将来像に合わせた「まちづくりのルール」を設けることが考えられます。こうしたルールづくりについて尋ねたところ、何らかのルールを全市的に設けるべきと考えている方が7割を超えることがわかりました。多くの方が、何らかのルールづくりの必要性を感じているようです。

設問9：美しいまちづくりのための有効な手段の一つとして、まちの将来像に合わせた「まちづくりのルール」を設けることが考えられます。こうしたルールづくりについてどのようにお考えですか？



■まとめ

アンケート結果から、景観形成には何らかのルールづくりが必要であり、「市と市民との協働体制・仕組みづくり」をキーワードに具体的な形や手法に反映させていくことが課題と考えられます。

みんなは中津の景観をどう思っているの？

「美しいまちづくりに関する市民アンケート」設問3：あなたの好きな場所、重要な場所より

印象の深い場所として、中津城、八面山、青の洞門が最も多く挙げられていることがわかります。いずれも中津の風土や歴史の中で培われた土地で、記憶の残る場所といえます。

生活のなかに身近に存在する景観、心の平穏をもたらしてくれる景観が、皆さんの大切な場所といえるのではないのでしょうか。そうした意味でも、多くの市民から愛される場所は、中津の風土に培われた歴史の産物であり、それがまちの象徴になっているともいえそうです。

好きな場所、重要な場所

- | | |
|----------|------------|
| 1. 中津城 | 11. 猿飛千壺峡 |
| 2. 八面山 | 12. 中津駅 |
| 3. 青の洞門 | 13. 羅漢寺 |
| 4. 一目八景 | 14. 福沢旧居 |
| 5. 大貞公園 | 15. 寺町 |
| 6. 西谷温泉 | 16. 沖代平野 |
| 7. 深耶馬溪 | 17. 裏耶馬溪 |
| 8. 薦神社 | 18. 中津港 |
| 9. 耶馬溪ダム | 19. 沖代小学校 |
| 10. 山国川 | 20. コアやまくに |



4. 「あなたが選ぶ中津景観百選」

中津市には、歴史あるまちなみ、史跡・名勝や日頃生活する地域のなにげない風景の中にも、すばらしい景観がたくさんあります。そんな素晴らしい景観を市民の共有財産として再認識し、ふるさとの愛着や誇りを持ち、今後の中津市のまちづくりや良好な景観形成に活かすために、「あなたが選ぶ中津景観百選」を募集し、選定しました。

(1) 概要

- 応募期間 平成21年4月1日から4月30日
- 応募総数 862件

(2) 「あなたが選ぶ中津景観百選」(※順不同)

	どこから見た	何を		どこから見た	何を
1	薦神社の参道	薦神社の神門	51		光円寺のしだれ桜
2	三光森山	八面山のすそ野に広がるコスモス園	52		所小野川の滝
3		青の洞門	53	山国川対岸(上毛町)	大井手堰頭自工(三口浄水場を背景に入れた)
4		競秀峰・青の洞門	54	三ノ丁の南部小学校	中津カトリック教会
5	つり橋	猿飛千壺峡	55	二ノ丸公園	中津城と桜
6		御霊のみみじ	56		川平間歩(荒瀬水路跡)
7	小川内	柿坂の鉄橋と岩峰	57	以トウスの所にかかる橋	青の洞門、山国川
8		念仏橋	58	もみじの丘	耶馬溪ダム
9	山国町長尾野地区	宇曾市平方面の山々の朝霧	59	小祝防波堤	笹干見及び小祝干瀧
10	薦神社参道	御澄池(6月)	60		御船寄(竜王地区)
11		鮎帰りの滝	61	市道多志田柿瀬線	直入畑の滝
12		羅漢寺	62	大城集落	不動岩
13		深耶馬溪ひさしのみみじ	63		奈女川溪谷
14		一目八景	64	草本～槻木山国川沿	山国川の奇岩変岩
15		ダイハツ九州アリーナ前道路桜並木	65		八面山大池
16	八面山(バグライダー-出発場)	沖代平野	66	智剛寺	羅漢寺参道
17	羅漢寺山門前	羅漢寺山門	67		羅漢寺参道沿
18	樋田	耶馬溪橋	68		馬溪橋
19		深耶馬溪折戸の奈女川の滝	69		そばの花と古羅漢
20		お豊の岩(猿の飛岩)	70		大城溪谷
21	槻木薬師林道	薬師溪谷	71	藤野木	長尾野地区の雪景色
22	新魚町	自性寺入口(正面入口の壁並を望む)	72	山国町中摩殿畑山登山道	中摩殿畑山ブナの原生林
23	八面山	夜景	73	中津城公園内三斎池の前面	中津城
24	西谷川	元近橋と西谷小学校と木ノ子岳	74		八面山平和公園のツツジ
25		溪石園	75	競秀峰頂(陣の岩)	山国川
26	明蓮寺の裏口	合元寺の赤壁	76	彦見橋	英彦山方面
27		福沢旧居	77	山国町草本国道496号	教順山の石段
28	耶馬溪町山移地区	はなぐり茶園	78	金谷上ノ丁の細い道	金谷の土堀
29	深泉寺	しだれ桜	79	青の洞門側	雨上がりの耶馬溪橋
30	競秀峰の陣の岩の展望台	青の洞門	80		競秀峰を背にする羅漢寺橋
31	跡田新田地区	古羅漢	81		荒瀬井堰
32		長岩城	82		大曲蛇淵滝の下
33		松原山	83	八面山しょうけの鼻	一面に広がる耶馬溪
34	念仏橋付近遊歩道	念仏橋付近の溪谷	84	八面山登山道	桜並木
35		京岩・鷺岩	85	犬走	羅漢寺橋(水面)
36	今津海岸	干瀧(朝日)	86		一ツ戸城址(と山国川)
37		賀治耶橋(眼鏡橋)	87	しもげ商工会	小川内の天然石橋
38		羽高棚田	88		天の岩戸
39		黒田の石垣	89		かかしワールド
40		光永寺の枝垂れ桜	90	JRの電車の窓	八面山(箭山)
41	サイクリングロード	旧耶馬溪線ト礼(厚ケ瀬ト礼)	91	山国大橋の手前の金谷の土手	山国川の夕陽(上毛町方面を望む)
42	東谷川出原貝塚	浮石	92	山国川の吉富側土手	山国大橋と中津市街地
43		落合の滝	93	若旗神社境内(今津小学校)	参道の桜並木と愛嬌のある仁王様
44		榎木の滝	94	東谷・屋形	ぼたる
45	中摩一ツ戸ト礼横	日田往還中津街道跡の洞門	95	洞門橋	オランダ橋
46	林道市平畑線(記念碑)	岩山	96	サイクリングロード沿	冠石野の桜並木
47	山野辺の路	神尾家住宅	97	鹿鳴館側	紅葉の大木の坂道(一ツ家まで)
48		山国町藤野木谷のわらこずみ	98		伊福の景
49	三口～恒久橋間道路(牧場南側)	山国川三口井堰の水面を経た八面山	99	雲八幡宮(境内)	千年杉
50	大正橋	やかた田舎の学校	100		金比羅宮

第2部 市民参加による景観づくり

1. 新たな景観づくりの取組み

平成18年に発足した「中津・桜ともみじの会」では、中津市を日本有数の桜ともみじの名所（里）にするため、市民総参加による植樹活動を推進しています。

また、三光地域のコスモス園や山国地域のかかしワールドなどの地域の特性を活かした取組みも、地域の新たな名物として市内外の注目を集めています。

新しい景観は、その地域の人のみならず、周辺の地域や遠方からの来訪者など、不特定多数の人々が目にするものです。「わたしたちの住む場所を良くしたい」「ここを訪れる人に気持ちよく過ごしてもらいたい」という思いと行動によって、まちの姿は大きく変化していきます。



地域での清掃美化活動



公園の花壇の手入れ



桜ともみじの会の植樹



山国かかしワールド

2. ^{いにしえ}古の景観を再生する取組み

奇岩・秀峰で国指定の文化財として指定されている名勝耶馬溪は、周囲に生育する雑木や人工林の成長により岩肌が隠れ、その魅力が失われつつあります。

「名勝耶馬溪」という地域の宝を再生したいという地元住民の思いや来訪者の声を受け、名勝耶馬溪の景観再生事業を実施しています。

修景されたそれぞれの景については、地域住民をはじめとした市民やNPOなどによる定期的な維持管理により、良好な景観を保全していきます。



名勝指定当時の深耶馬の景

<修景前>



古羅漢の景



深耶馬の景



伊福の景



<修景後>



古羅漢の景



深耶馬の景



伊福の景

第3部 みんなでより良い景観を創るために

本計画の推進には、市民一人ひとりが、自ら所有し、又は管理する建物などが良好な景観の一部を構成するものであることを理解し、主体的に景観の形成に関わっていくことが不可欠です。そのため、次の取組みにより市民参加の促進を図り、みんなでより良い景観を創ります。



1. 啓発活動の展開

“いまなぜ景観なの”という問題意識を市民みんなが持つところから始めます。「あなたが選ぶ中津景観百選」の募集や講演会、研修会、景観づくりワークショップの開催など、市民が興味を持ちやすく、参加しやすいようなイベントを通じて啓発活動を行っていきます。

2. できることからまず始めていく

あなたが「プランターを庭先に置く」という小さな行為から、まちの景観づくりが始まります。“向こう三軒両隣り”から班、自治会へと段階的に、活動の輪を広げて行きます。合意形成が得やすい小さな単位の取組みからスタートして、地域へと連鎖させることでその地域に合った景観づくりとその質の向上を図ります。



また、地域住民が地域の清掃活動や花植え活動などの景観づくりに共に取り組むことで、地域コミュニティの活性化につながります。

3. 表彰制度の創設

市民や事業者の景観への関心を高め、積極的な参加を促すために、個人や事業者の努力によって良好な景観が創出・保全・再生された事例について、その結果や努力を「ひと、もの」に対して表彰する制度を創設します。

4. 景観形成のための支援

市民等の主体性を重視した景観づくりを推進するため、市民の発意による景観づくりの取組みを支援します。市民との協働で地区の良好な景観形成に向けた方針や基準づくりなどに取組み、新たな景観計画へ位置づけていきます。

市民やNPOの活動をこれまで以上に発展させ、景観の形成に主体として取組めるよう組織の育成・支援をします。

5. 景観形成のための道しるべ（景観づくりの指針）の活用

市民や事業者がこの景観計画に沿って具体的な景観づくりを進めていくための指針（ガイドライン）を積極的に活用します。このガイドラインは、地区の目指す姿や景観形成のための基準を、より具体的に分かりやすく明示するもので、本計画を運用する上での道しるべとなります。

6. 第三者機関による景観評価

良好な景観形成に向けて、本計画の策定や変更、行為の制限に係る勧告等については、景観の専門家などで構成する第三者機関の景観審議会等に諮り、専門的な指導・助言を受け、手続きの透明性の確保や基準の運用を図ります。

7. 行政の組織づくり

良好な景観形成を実現するためには、行政の各担当部局が相互に連携し、総合的な施策を推進していく必要があります。このため、中津市全体の景観に関わる取組みを総合的に調整する景観形成庁内検討委員会を設置します。